

目次

□巻頭言 機械化について思うこと石上立夫/1

□社団法人日本建設機械化協会の事業活動
 社団法人日本建設機械化協会定款 / 3
 各部会・専門部会・建設機械化研究所の動き / 5

□部会研究報告
 ショベル系掘削機の新 JIS 規格
機械技術部会ショベル技術委員会/17

□昭和 53 年度官公庁の事業概要 (その1)
 建設省関係公共事業の動向原 隆之/25

グラビヤ——都市交通 (高速道路・地下鉄・モノレール)

□都市交通の展望
 都市高速道路沓掛哲男/35
 地下鉄猪瀬二郎/44
 都市モノレール鶴沢正治/57

□随想 土木界の長期展望八十島 義之助/62

特殊な形状に適するスリップフォーム工法本田忠義
 ——シミズフレックスリップシステム——岡野正/65
三 船 栄之助

建設機械損料の改正建設大臣官房建設機械課/69

□新機種ニュース調査部会/73

□整備技術
 ビストン、リング、ライナ損傷の事例整備技術部会/78

□ISO 規格紹介
 建設機械の安全性の必要条件および
 居住性に関する ISO 標準規格 (7)I S O 部会/81

□統 計
 建設工事受注額・建設機械受注額・建設機械卸売価格の推移
調査部会/83

行事一覧 /84

編集後記(酒井・中尾)/86

◀表紙写真説明▶

三菱-ヒューズ
 シャフトボーリングマシン
 三菱重工業株式会社

本州四国連絡橋のうち、大鳴門橋の多柱基礎工事用として三菱-ヒューズシャフトボーリングマシン MD 360 A 1 基 (2P 用) および MD 440 2 基 (3P および 4P 用) が海底の岩盤掘削を開始した。本機は大型海洋構造物や橋梁の基礎掘削のほか、岩盤の平面掘削、一般土質の掘削、レイズボーリング (切上り掘削) および斜坑掘削などの多用途に使用可能である。

写真は鳴門市側から望む鳴門海峡で、手前から 4P、3P、2P と続いている。

◀主な仕様▶

- 掘削口径: 3,600 mm (MD 360 A)
- 4,400 mm (MD 440)
- ロータリトルク: 35 t-m (MD 360 A)
- 40 t-m (MD 440)
- 掘削機本体重量: 130 t (MD 360 A)
- 155 t (MD 440)
- ドリルストリングス重量:
- 145 t (MD 360 A)
- 195 t (MD 440)
- 総重量: 323 t (MD 360 A)
- 407 t (MD 440)